

令和2年度 日本病院前救急救命学会事業報告

令和3年6月

理事長活動報告

今年度は、COVID-19の関係で移動ができず消防本部などへの広報活動はできなかった。

へるす出版様のご協力で当学会の準機関誌として「救急救命士ジャーナル」の発刊が決定し、会員に対して還元できることと併せて、学会活動を活性化することを目指している。

救急救命士ジャーナルについては、具体的には令和2年8月に出版についてへるす出版の佐藤社長と、関係書籍の出版も含めて協議を行った。また、編集委員会の立ち上げや顧問、顧問やアドバイザー、公的機関からの投稿調整などについても協議を行った。救急救命士ジャーナルの広告については、協賛会員の継続も含めて理事長が交渉を行った。

①日本船舶薬品株式会社 ②日本光電株式会社 ③株式会社アルム社 ④株式会社グッドケア

令和2年9月には、理事長が大阪府指導救命士会合にて講演を行った際に会員の募集広報を実施した。

総務運営委員会活動内容

2021年3月3日の臨時理事会から、組織会員及び非選挙理事の導入に向け、諸問題の検討を行う指示を受け、検討を行い、理事会へ答申した。

また、2021年5月6日の執行部会議において、指摘された懸案事項を協議し、今後の方向性を示した上で、定款及び定款施行細則の改正案作成を行い、理事会に答申した。

広報委員会活動報告

ホームページ及びFacebookへの広報活動・運営及び維持管理を継続して実施した。

具体的には、第7回学術集会専用ページの作成や救急救命に関わるニュースについて告知を行った。

また、編集委員会と協働して、準機関誌とニュースレターの発行するとともに、救急救命士向けの津ハウツ一本の執筆を開始した。

教育研修委員会活動報告

Zoomやメールを活用して、ミーティングを行った。

令和2年度に開催された第6回学術集会のワークショップセッションについて、企画・運営を行った。また令和3年度の学術集会への協力として実行委員会への委員を派遣するとともに企画、進行の協力を行っている。

会員MLや学会公式ホームページへトピックスなどを掲載し、会員への情報提供や情報共有を図った。

コロナ禍の救急対応が困難になっていたことに鑑みて、全国特に近畿地域への救急隊員へ向けて応援メッセージを発出した。

評議員審査委員会活動報告

本年度は、当委員会に関する活動はなし。

編集委員会活動報告

救急救命士ジャーナル編集委員会に WG を立ち上げてそのメンバーを派遣して、WEB 会議を活用して発刊に向けて編集作業や投稿規定の作成などを行った。また投稿論文の査読のための WG を立ち上げて査読委員選出し、論文投稿の受け入れ体制の整備（投稿規定、誓約書・COI 申告様式、投稿論文の査読に関するループリック、論文投稿の流れ）を行った。投稿論文は（2021 年 5 月 14 日現在、2 本の投稿があり、1 本は採択して、創刊号に警察した。

また、広告申込書の作成及び募集を行い、創刊号は、5 社から広告応募を受けた。（①日本船舶薬品株式会社②株式会社アルム③レールダルメディカル④株式会社グッドケア⑤エアストレッチャー株式会社）ニュースレターWGを立ち上げて年4回のニュースレターの作成を目指した。

救急救命士を対象とした研究及び学会発表のためのハウツー本の出版に向けて WG を作成して、準備を進めている。

国内外関係機関との交流連携委員会報告活動報告

メールにて 関係各機関、諸団体との交流の検討を行った。

令和 3 年度 の国外交流事業として、①チェコ共和国で開催される 国際救急技能競技会 に関する情報収集、②台湾の救急救命士 学会との交流を視野に 勉強会等の開催の可否を検討する。また、2021 年 11 月から 12 月の間に勉強会を開催することを目標とした。

国内の交流連携事業として、

また、JESA で行われている 文部科学省による研究事業の「VR を使用した病院実習および救急用自動車同乗実習」 について、第 7 回日本病院前救急救命学会において講演を依頼し、受諾された。

第 6 回日本病院前救急救命学会報告

令和 2 年年 10 月 25 日に ZOOM ウェビナーと YouTubelive を活用して WEB 開催した。

大会会長は、国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 張替 喜世一が努め、テーマは「救急現場学の構築に向けて」～ Experience と Evidence が融合した EBM の確立～とした。

鹿島地方事務組合消防本部 Medical Adviser の鶴岡 信先生の教育講演に始まり、一般演題、パネルディスカッション「救急救命士が目指すべきもの—それぞれ の活動現場から—」、ワークショップ「経験からの仮説とその証明で病院前救急の EBM を作る」プログラムとした。

参加登録人数 530 名で当日の ZOOM 参加者総数 277 名、YouTube 視聴は約 900 回であった。